

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

### 1. 資料1～4について、御意見・御質問について

No.	御意見・御質問	回答
1	資料1 (1) 表のチャレンジ事業の数値目標では5年間の増減が解りますが、取り組み名の欄に 1-1-2 等の番号を入れると 資料3, 4につながりやすく「取り組みの進捗状況」「成果」「課題」「今後の方針」の項にもつなげやすいと思いました。 ※目標と達成状況の欄がありますが、数値で目標を表現している以上△の表示はおかしく、達成していれば○、不達なら×の表示が良いと思います。見栄えを良くする必要はありません。△でも5年間の自己評価ではすべて「A」になっています。	御意見のとおり、取り組み名に1-1-2 等の番号を入れた方がわかりやすくなりますので、今後は番号を入れてまいります。また、目標の達成状況につきましても、よりわかりやすい表示を検討してまいります。
2	(2)●基本目標 1 「地域活動に参加している市民の割合」は隔年ながら23%～24%台で目標の35%に届いていません。 自治体加入率が毎年低下していることも気になります。 1-1-2 市民活動課には、今後の具体的な方向性に「加入率低下要因の分析を進め」とありますが、要因のピックアップはできているのでしょうか？それがないと分析ができませんか？ 活動の担い手不足は今後さらに増加すると思います。 「共助」の理解、浸透が周囲の人に深まることは簡単ではありませんが、「多分直接自分にメリットが無いけれどちょっと参加してみようか」という思いを持ってくれそうな人への粘り強い「声かけ」が大切だと思います。やはり普段からの接し方が重要で「担い手＝重たい」と感じさせない声かけ方が理想です。	令和3年度6月1日現在の自治会加入率は59.45%となっており、年々低下傾向にあります。これは、未加入者の増加というよりは、脱会者の増加が大きく影響を及ぼしていると考えられ、個人での退会というより、班単位やマンション棟の退会、町内会の解散等が原因で大きく加入率低下に繋がっていると分析しています。 各自治会では、新しく市内に転入された世帯への加入の声かけや、地域の防犯、快適な住環境づくりのため地域で管理している防犯灯やごみ集積所の周知、案内を行っています。来年度からは新しく役員になられた方の負担や不安を軽減できるよう、手引書として活用していただく「自治会ハンドブック」を配布します。また、各地区公民館には市と地域のパイプ役として校区担当職員を1名ずつ配置し、地域の相談窓口としての機能充実を図っています。
3	(3)●基本目標 2 「NPO・ボランティア活動」への参加割合が、H26年の39.2%からR1年の50.4%に大きくUPLしていて市民のボランティアに対する意識の高まりが見られます。	社会情勢の変化に加え、行政・社協・各種事業所・ボランティア団体などにより、市民への働きかけによりボランティアに対する意識が向上したものと考えます。 今後も積極的な働きかけを継続してまいります。
4	(3)●基本目標 2 「NPO・ボランティア活動」への参加割合が、H26年の39.2%からR1年の50.4%に大きくUPLしていて市民のボランティアに対する意識の高まりが見られます。 ※社協のチャレンジ事業2-1-2「ボランティアサロンの開催」がR2年は、新型コロナウイルスの影響で参加人数が大きく減少してしまったのは残念です。	令和2年度のボランティアサロンは新型コロナウイルス感染症の影響により12回中5回が中止となり、参加人数が減少してしまいましたが、令和3年度以降も、できる限りの感染症対策を図りながらボランティアサロンを開催しボランティア活動に参加するきっかけとなるよう努めていきたいと考えています。

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

5	<p>(3)●基本目標 2 「NPO・ボランティア活動」への参加割合が、H26年の39.2%からR1年の50.4%に大きくUPして市民のボランティアに対する意識の高まりが見られます。 ※行政のチャレンジ事業2-1-2「らくらく筋トレ自主グループの活動支援」ではH29年からは、60団体以上に増加しており健康への関心の高さと共に元気な高齢者が多いことが見受けられます。</p>	<p>ご意見の通りです。「らくらく筋トレ自主グループ」は、健康増進を目的としている他、高齢者の介護予防の視点も含まれています。今後も寝たきりにさせないまちづくりを目指し、運営などの支援を実施していく予定です。</p>
6	<p>(4)●基本目標 3 成果指標では、「必要な福祉サービスの情報入手ができて市民の割合」は低下していますが、どのような情報を求めているのでしょうか。また、アンケートを見ると回答者の年齢が70歳未満はインターネット、SNS等で自分から情報を取りに行くことが簡単にできるのに比べ、70歳以上になると紙媒体が多くなって「情報待ち」になっている状態が見受けられます。</p>	<p>どのような情報を求めているかは、アンケート項目にないため不明です。今後のアンケート項目とするか検討してまいります。 アンケートでの「より効果的な情報の提供方法」については、20～59歳ではインターネット、SNSでの提供、60歳以上では広報・機関紙や回覧板・掲示板が他の年代よりも多い傾向がありました。 60歳以上の方に対する、紙媒体ではない情報提供方法については、今後の課題であると認識しております。</p>
7	<p>(4)●基本目標 3 成果指標では、「必要な福祉サービスの情報入手ができて市民の割合」は低下していますが、どのような情報を求めているのでしょうか。また、アンケートを見ると回答者の年齢が70歳未満はインターネット、SNS等で自分から情報を取りに行くことが簡単にできるのに比べ、70歳以上になると紙媒体が多くなって「情報待ち」になっている状態が見受けられます。 ※社協のチャレンジ事業の3-2-2「ホームページによる情報発信数」がH29年から大きく増加しておりデータ容量を増やしてホームページの全面刷新の効果が出て非常に良かったと思います。</p>	<p>ありがとうございます。今後も市民の皆さまにわかりやすい情報発信の充実を図りたいと考えています。</p>
8	<p>(5)●基本目標 3 社協、行政ともに福祉に関する相談で地域包括支援センターの役割が非常に頼りにされていることが数字で現れています。 これからもますます複雑になる社会の中で市民の不安に対応いただくようお願いします。</p>	<p>複雑になる社会の中で、相談内容や家族関係も複雑になってきています。地域包括支援センターは高齢者の相談窓口ですが、状況により障がい者基幹相談支援センター等必要な機関と連携を取り支援を行っています。</p>
9	<p>(6) ●基本目標4 成果指標では住民同士のつながりが見えますが、年々数字が下がるのは残念です。ますます近所付き合いを求めない、必要としない世の中になってしまう心配があり、困ったときは「公助」頼みになってしまいそうです。</p>	<p>共働きや単身世帯の増加などの生活スタイルの変化によって、近所付き合いが減少していると考えられます。 本市が目指す「地域共生社会」の実現のためには、住民同士のつながりがますます重要になってきますので、生活スタイルの変化に合った「地域力を強化」を目指してまいりたいと考えています。</p>

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

10	<p>(6) ●基本目標4 成果指標では住民同士のつながりが見えますが、年々数字が下がるのは残念です。ますます近所付き合いを求めない、必要としない世の中になってしまう心配があり、困ったときは「公助」頼みになってしまいそうです。</p> <p>※社協のチャレンジ事業4-4-1「一人暮らし高齢者への宅配・昼食会の支援充実」ではR2年は新型コロナの影響で開催できなくなり楽しみにしている高齢者もいらっしまったと思うと残念です。また、担い手不足で活動を止めたグループもあり後継者問題はここでも発生しました。</p>	<p>・令和2年度は地域福祉活動の実施が難しい状況となり、一人暮らし高齢者への宅配・昼食会も一部を除いて実施できなかったことは残念に思います。また、新型コロナウイルス感染症の影響による活動の長期休止からグループを解散されたケースがあり、活動の継続という点からも影響が出ています。</p> <p>・感染症対策の中での活動方法の情報提供など、今後も地域福祉活動が継続できるよう支援していきたいと考えています。</p>
11	<p>資料3 行政1 1-1-2</p> <p>自治会加入率は、夫婦共働きの現在向こう3軒量隣の付き合いも少ない現状で加入率低下は止められないと思います。対策として子供通学団員の交流の充実を高めること。例えば週1回は通学団全員で遊ぶ(集う)場を設ける。(昭和の時代はあったが平成になってなくなった。社会構造、経済の変化である。)大人(両親)を説得しても難しいので長いスパンで考え子供達の絆(つながり)を育てて子供から親達の交流を創ってはどうかと思います。子供会がなくなったことは致命傷である。(復活を望む)活動は6年生(高学年)に任せること。</p>	<p>小学校では、通学団全員で遊ぶ機会を設けることはしていませんが、高学年が中心となって行う異学年交流活動を実施しています。</p>
12	<p>資料3 行政1 2-1-2</p> <p>健康づくり等について、高齢者支援は充実していると思います。さらに望むならグループ毎に定期的に健康講座や健康用具(サポーター等)の支給等お徳感を行ってほしい。</p>	<p>職員出前講座を開設し、希望のグループには、健康講座を実施しています。多くのグループに活用してもらえるようにしていきたいと思います。健康用具については、ニーズが様々であると考えますので、一律の支給は考えておりません。</p>
13	<p>行政3 2-1-2健康課の「健康づくりに関する 職員出前講座の実施」では申し込みグループ数がどれだけあったのでしょうか？課題と今後の方向性の文言を見ると不公平感が出ているようで対応に苦労されているようにも感じられます。</p>	<p>現在新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため、申込数は多くはありません。多い時で100グループ近くから申し込みを受けており、年間複数回申し込まれるグループも多かったので、利用制限を設け、公平にご利用いただける様に工夫しました。</p>
14	<p>* 行政5 3-1-1 福祉課の「生活困窮者の相談件数」がR2年に急増しているのは、新型コロナの影響でしょうか？</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、廃業・解雇・就業時間の減少などで減収となった方からの、生活困窮に関する相談が増加したことが大きな要因です。</p>
15	<p>※行政10 4-2-2 こども課の「生後4か月までの全乳児世帯訪問」は少子化の時代に親が精神的に落ち着いた中で健やかに子どもが育つ環境作りにとって大切な事業だと感じました。是非続けてお願いします。</p>	<p>生後4か月までの子を持つ世帯を家庭訪問し、子育て家庭の孤立化を防ぐとともに、育児負担の軽減及び児童虐待の未然防止を図っております。引き続き、取り組みを継続していきます。</p>

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

16	<p>※行政11 4-4-1 環境事業センターの「あさひ訪問収集」が空振りになってしまいうケースが多いとのことですが、急な入院、入所の際にどこへ連絡をするかは中々気がつかないかと思えます。訪問収集の依頼があった時に本人以外の第2連絡先を登録ができる仕組みがあると最初の空振りの時に第2連絡先に状態確認ができると思えます。再開の時は改めて依頼をしてもらう必要があります。</p>	<p>訪問収集の依頼時には申請者(介護関係事業関係者等の場合を含む)の連絡先と親族等による緊急連絡先を記入いただいております。また、訪問収集開始の際には、不在になる場合は環境事業センターへ連絡していただくよう書類を用いて説明しております。訪問時にごみの排出がない場合は、本人または記入いただいた連絡先にその都度確認しておりますが、その際「連絡を忘れていた。申し訳ない」との返答がほとんどです。急な事情による場合もありますが、ぜひ事前に連絡くださるようお願いいたします。なお、一旦中止後、再開時には改めて依頼していただいております。</p>
17	<p>行政 13 5-1-2 市民活動課 少年センターへの相談方法でR3年2月より「メール相談を開始した」とありますが、半年だけのデータとして相談件数は増加したでしょうか？若い人は面談、電話での声の相談よりまずは手軽に文字での会話を得意とする流れがありますのでSNS等も自分の思いを伝えやすい通信手段かと思えます。</p>	<p>4月から8月の相談件数について、令和2年度は電話64件でしたが、令和3年度は電話59件、メール59件、合計118件となり、相談件数は増加しました。メール相談は同一人物からの継続相談が大部分を占めていますが、若い人からの相談もあるので、思いを伝えやすい通信手段として利用されていると思われま。</p>
18	<p>※行政 13 5-1-3 産業課 ふるさとハローワークのR2年度の実績はどうだったのでしょうか？地元での就職希望者が増加すると市内の活性化にもつながる良い事業かと思えます。</p>	<p>令和2年度の相談件数は、7,435件、就職した件数は311件でした。令和元年度と比較すると、相談件数は、1,508件増加しましたが、就職した件数は23件の減少となりました。</p>
19	<p>※行政 13 5-1-3 教育行政課 「児童・生徒の様々な悩みに対する相談支援」ですが、相談内容、件数等の開示は可能でしょうか？</p>	<p>小中学校の「心の教室相談員」への相談件数・来客者数につきましては、事務事業評価表で公表しています。</p>
20	<p>※社協 9 3-1-3 生活困窮者への支援では、フードバンク、資金貸付で社協の役割が大きいと感じました。ひまわり資金では長期的な支援が課題となっていますので是非とも前に進めていただきたいと思います。</p>	<p>相談者世帯が抱えている課題は金銭面だけではなく、家庭で様々な課題を抱えている場合も多く、相談者世帯に寄り添った支援ができるように、福祉課や地域包括支援センターをはじめ様々な関係機関と連携して長期的な支援を行えるように取り組んでいきます。</p>

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

21	<p>※社協14 4-2-2 虐待・DVの 地域包括支援センターへの相談件数がH28～R2年までを見るとH30は減少したものの毎年大幅に増加しているようですが、これは高齢者に関する相談の件数でしょうか？また、通報に至らない事案は相談だけで解決しているとしてよろしいのでしょうか？</p>	<p>4-2-2上段の虐待の相談に対する件数はすべての高齢者の虐待案件で、連絡・調整を含めた回数を相談件数としていません。虐待通報を受けたものは、すべて調査確認を行い、コア会議を開催し虐待の有無を判断し、分離等の処置を行い、又は一定期間モニタリングを行い再発なく経過している場合は、終結とします。それ以外の疑い等の相談は、相談者が介護支援専門員の場合が多いのですが、相談者等を通じて引き続きモニタリングを行うこともあります。相談後、一定期間経過して問題なく生活が出来ている場合は、相談だけで解決したとみなしています。</p>
22	<p>※社協15 4-4-1 課題の「民生委員の福祉表調査と高齢者実態調査を統一してほしい」についてどうということですか。</p>	<p>民生委員の福祉票調査では、70歳以上の独居の方及び70歳以上の高齢者のみの世帯に民生委員が訪問し、生活状況や緊急連絡先などを確認しています。高齢者実態調査は、市内3箇所にある地域相談窓口の相談員が75歳以上の方に訪問し、生活状況や健康状態を確認の上、必要があれば福祉サービスに繋げる支援を行っています。どちらも目的の一つに高齢者の見守り支援があり、対象者が一部重複するため、「統一してほしい」との意見があります。</p>
23	<p>社協3 1-2-1 「ミニデイネットワークの強化」日本語は(意味)？</p>	<p>「ミニデイ」とはミニデイサービスの略称で、ボランティアグループが運営するおおむね60歳以上のかたや、障がいのあるかたを対象とした地域の交流の場のことをいいます。尾張旭市内では現在5か所で開催されており、それぞれのサロン代表者が年に2回集まり情報交換などを行っています。そのミニデイサービス主催者同士のつながりのことを「ネットワーク」と呼んでいます。</p>
24	<p>資料5 校区別アクションプランについて、めざす姿、取組は理解できるが校区社協の会員の負担が大でありすぎる。地域市民に取組が周知がされていないように思います。めざす姿を絞り込んで自治会等と協力して、標語を掲示してはどうか。</p>	<p>・校区別アクションプランは、校区社協のみならずその地域で活動されている団体や地域住民が参加し推進いただく行動計画です。今後も、広報紙やホームページを通じて情報を発信するとともに、地域福祉活動に対する関心を高めていきたいと考えています。 ・標語の掲示について、これまで実施していませんが、今後の参考とさせていただきます。</p>

## 尾張旭市地域福祉計画推進会議(書面協議)の御意見及び回答

### 2.その他、尾張旭市第3期地域福祉計画や、地域福祉全般に関して

No.	御意見・御質問	回答
1	<p>コロナ禍で計画の遂行が難しい状況だと思います。しかし令和2年度を底として、各校区、少し前向きな方針を出しているようにも見えます。 次期計画策定に向けて、その部分を生かしていきたいと思います。</p>	<p>・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人とが触れ合い、交流する事業が困難な状況にありました。本来であれば地域福祉計画策定と併せて校区別アクションプランも策定する予定でしたが、令和3年度に延期しています。 ・令和3年度に、校区懇談会の実施、そして校区別アクションプランの策定を行う予定で、5年間の振り返りとともに、プランの内容をこれからの状況に合ったものにしていけるよう、皆様と検討していきたいと考えています。</p>
2	<p>コロナ禍にあって、現在の地域福祉の形は、平時において機能するものだと痛感しています。リモートやテレワークなどの情報通信技術を福祉と結びつけることはできないのでしょうか。 人と人が直接触れあうのが一番良いのはわかっていますが、今後ますます増えるであろう非常事態に備え、環境を整える必要があると思います。</p>	<p>これまでのつながりを絶やさず、インターネット等の活用を含めた新たなコミュニケーションや支援のあり方について、推進会議の構成員の皆様からも御意見をいただきながら、検討してまいりたいと考えております。</p>